



僕はこの五年間ほどから宇宙論に強く興味を持っており当然ずっと理学部志望でいました。しかし、実利がほとんど期待できないこの分野では研究をして生計を立てていけるのは、才能の面でも金銭の面でも限られた一握りの人だけで現実はそれほど甘くはないんだと徐々に気づきました。それに就職を目指したところで、宇宙論にそれほど潰しが利くとは思えません。

それに矛盾した話かもしれないですが、僕には漠然と、「自分で、企業などにとっての実利となるなんらかの『財』的なモノを生み出したい」、「社会にできるだけ直接的に影響し、社会に必要とされたい」といった憧れのようなものがあります。この希望は自分の興味のある分野の性質と相対することのように自分でも感じるのです。

「ポスドクまで行ったあげく、30歳で挫折してフリーター完成」のような事態は何としてでも避けたいし、周りの人たちの進めもあって工学部への転向を考えています。

しかし工学部という学部は、特定分野の就職に強い反面、大学に入る時点である程度自分の将来専攻すべき分野を決めておくことが求められると僕は聞いています。

あと一年でそれを決めるには、僕には時間と情報が少なすぎます。

苦しんでおりますが一年以内に最初の決定をしなければなりません。

なるべく将来に選択肢が残るような進路を教えていただけるようお願いします。



真剣に将来のことを考えておられる様子、大変感心致しました。

また色々とやりたいことを持っておられることは、将来それがどのような形でご自分に関わってくるのかによらず宝物です。大切になさって下さい。

工学部や工学研究科等では企業などで応用に役立つ知識を学ぶことができます。

もし、具体的に希望するものがはっきりしているようでしたら、それを選択するのも良いと思います。

しかし、それで人生が決まると考えるのは、早すぎます。世の中には色々な仕事があります。また一生同じ仕事をしてゆくとは限りません。

ひとつの専門に限定されない広い知識も必要です。そのためには、常に研鑽を積むことを怠らないようにすることが大切です。

一方、理学部や理学研究科では基礎的な学問の研究を行っています。

物理系では、物理現象の基本を理解し解明してゆきます。

実験したり、計算したり、新しい理論を考案したりする中で、それまでわからなかつたものが見えてきます。

その成果を世界中に発信します。仮に企業等に就職することを考えた場合でも、それらは十分に生かされます。

実際、大阪大学理学部物理学科およびその上にある大学院(物理学専攻と宇宙地球科学専攻)には沢山の求人が来ます。

卒業生は、工学部や工学研究科出身の人たちと共に活躍しています。

強いて言えば、工学系出身の人はその技術的な可能性を経験の中から突き詰めて技術開発や生産を行うのに対して、理学系出身の人は基本から理解して原理に基づく新しい技術の開発や生産を目指そうとします。実際はその両方が必要です。

また最近の傾向としては、特許関係の求人が増えています。高校教諭になる方もおられます。博士課程(後期課程)に進んだ場合でも、能力が認められれば企業に就職するひとも少なくなくあまり狭く考える必要はないと思います。物理学専攻のホームページには、卒業後の進路が掲載されていますのでご覧下さい。

もし研究に強い関心があり、しかもその能力があれば大学等のアカデミックな職につくことは十分可能です。

理学系の研究は必ずしも直接世の中の役に立つことを目指して研究しているわけではありませんが、その研究成果は人類の英知を育む知識の一端を担っています。

宇宙がどうやってできたのか、とか素粒子の根元を解明することは確かに我々の日常生活に直接変化はありません。しかしそれを知ることによって、人類はより豊かな世界観をもつことができます。

なお、ポスドクという身分は、研究者が独り立ちするための期間と理解して下さい。

研究職に就くと、自分で研究テーマを提案し推進します。ポスドクなどの経験を経ることによって、新しい研究領域を開拓してゆく能力と次の世代を育ててゆく能力が更に身に付きます。

大学の教官は、研究の進展だけでなく若い人たちの教育にもやりがいを感じています。

若い人たちが研究を通じて能力を身につけて企業などに就職し活躍することは、教官が直接生産には関わりませんが社会的に非常に有意義なことだと思います。

もちろん、物理学には宇宙論に限らず色々な学問があります。興味があったら是非入学を志して下さい。

たとえば、固体結晶が示す性質や機能の探求はそれ自体に尽くせない興味があるだけでなく、その基本原理は応用のための指針としても重要です。

また理学部では物理以外にも様々な基礎学問を研究している研究室があります。宇宙論でなければ工学部という発想はあてはまらないと思います。

ところで、何かひとつの仕事を成し遂げられる能力を持ったひとは他の仕事でもその能力は発揮できるものです。

現時点では、将来の選択肢について情報が十分ではないかも知れませんが、逆に「今、何かを選択したら将来が決まり、安泰」と期待するのも安易な考え方だと思いませんか。

大切なことは何事にも真剣に向かっていることです。

いつかチャンスがやってきたときにそれをものにします。いつも成長していること、それが大切です。

ちなみに「未熟」とは熟す過程にあることを意味します。それには上限はありません。年をとっても上を目指す「未熟者」でいたいものです。

ご健闘を祈ります。